

京都企業のBSI値 1～3月期
国内景気は先行き慎重
自社業況は改善傾向にやや一服感

本所は、2月下旬から3月上旬にかけ経営経済動向調査（1～3月期）を実施し、その調査結果をまとめた。この調査は、短期的な景気動向を把握するため四半期ごとに行っているもの。京都府内に本社、本店を持つ企業を調査対象とし、518社から回答を得た（回答率73.9%）。

今回は、2007年1～3月期の実績と4～6月期、7～9月期の景気、業績見通しについて質問した。

I 国内景気動向

2007年1～3月期は「上昇」とした企業24.6%、「下降」とした企業12.6%、BSI値6.0（前期実績11.7）と下降した。今後の4～6月期はBSI値12.4、続く7～9月期は8.5と緩やかに下降基調を続ける見通しとなっている。

II 企業経営動向

自社業況（総合判断）

2007年1～3月期は、BSI値▲6.0（前期実績9.8）と悪化した、今後の4～6月期はBSI値2.5、7～9月期は▲1.9と総体的に改善傾向にやや一服感がうかがえる。

※自社業況（総合判断）は、以下に続く「生産・売上高、工事施工高」から「資金繰り」までの6項目を総合的に判断したもの。

1. 生産・売上高、工事施工高

2007年1～3月期は、「増加」20.7%、「減少」37.7%、BSI値▲8.5（前期実績12.3）となり、不需要期であることから減少となった。今後の4～6月期はBSI値3.4、続く7～9月期は▲2.3と一進一退の見通しとなっている。

2. 製・商品・サービス・請負価格

2007年1～3月期の製品価格、商品価格、サービス価格、建設請負価格を総合的に見ると、「上昇」8.2%、「下降」14.6%、BSI値▲3.2（前期実績1.0）と下降に転じた。

今後の4～6月期はBSI値▲0.5、7～9月期は▲2.5と弱含みで推移する見通しである。

3. 経常利益

2007年1～3月期は、BSI値▲11.5（前期実績5.3）とマイナスで減益傾向となった。

今後の4～6月期は▲1.2とやや持ち直す見込みであるが、7～9月期には▲5.0と再び減益傾向の見通しとなっている。

4. 所定外労働時間

2007年1～3月期は前期に比べて減少し、BSI値▲2.5（前期実績10.3）となった。今後の4～6月期はBSI値▲0.8、7～9月期には▲2.0と総じて横ばいの見通しである。

5. 製・商品在庫

2007年1～3月期は、「適正」とする企業が72.3%、「過剰」とする企業が21.7%、「不足」とする企業が6.0%、BSI値7.9（前期実績7.6）と概ね適正水準で推移したが、一部に過剰感がみられた。

今後の4～6月期は「適正」が79.8%、7～9月期は84.1%と概ね適正水準で推移する見通しである。

6. 資金繰り

2007年1～3月期は、「改善」とする企業が9.6%、「不変」とする企業が75.8%、「悪化」とする企業が14.6%、BSI値▲2.5（前期実績0.7）とわずかながら悪化を見せた。今後の4～6月期はBSI値0.7と改善するが、続く7～9月期は▲3.6とやや悪化懸念がみられる。

Ⅲ 当面の経営上の問題点

第1位の「受注・売上げ不振」（45.6%）に続いて、第2位に「過当競争」（32.4%）第3位の「製・商品（請負）価格安」（28.4%）は前期と順位は変わらず、また第4位には「原材（燃料）高」（27.8%）が引き続き挙げられた。

Ⅳ 企業経営の今後の方向（年1回3月時点調査で実施）

前回調査（2006年3月）に続き「人材の開発・育成」（前回51.1%→今回52.1%）が第1位で高いポイントを示した。第2位には「製品商品・新技術の研究・開発」（42.1%→37.6%）が挙げられ、また第3位には「国内市場の拡充・強化」、第4位に「省力化・合理化の徹底」が指摘された。

(注) BSI値とは、景気全般の見通しについて強気、弱気の度合を示すもので、プラスは「強気」「楽観」、マイナス(▲)は「弱気」「悲観」を意味する。算出方法は、上昇回答から下降回答を差し引き、2分の1を乗算。